令和５年度　放課後活動指導者研修③　実施報告

実施日：令和５年６月 21 日（水）

◎　当研修は、放課後子ども教室において、子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動を行うことができる場づくりに必要な知識や技術の習得を図るための研修です。第３回はオンラインで実施し、84 名が参加しました。

○ 講話「子どもを理解しよう～子どもの発達に応じた大人のかかわり方～」
元宇都宮共和大学　教授　土沢　薫　氏

土沢先生は、発達心理学、発達臨床心理学を専門とされ、宇都宮市教育センター相談員、乳幼児健診心理相談員等を歴任され、昨年度までは宇都宮共和大学に勤務されておりました。また、保育、教育関連の心理職として栃木県内のスクールカウンセラーやスーパーバイザー等、本県の様々な分野で活躍中です。

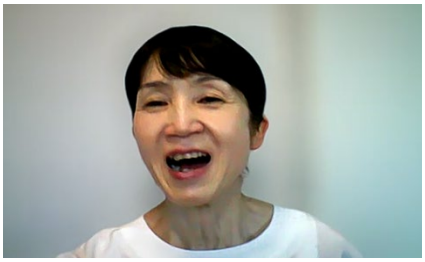
今回の講話では、はじめに、乳児期、幼児期、学童期、思春期における子どもの特徴とその時々に応じた大人の望ましい関わり方について説明がありました。

次に、子どものやる気を引き出すためには、活動する子どもの興味関心を引き出すような大人の適度な働きかけや、急がせず、ゆとりを持って見守る姿勢が大切なこと、活動する子どもの年齢に幅があるときは、上の学年の児童が援助者役になれるような手立てが必要なことなど、今後指導に携わる上での多くの示唆がありました。

その後、「廊下でボール投げをしている子どもにどのような言葉かけをするとよいか」など、問題行動が起きたときの望ましい大人の関わり方についてグループ協議を行いました。受講生は、多様な考えに触れることで、子どもの行動を良くしていくためにどのような言葉掛けが必要かを深く考えることができました。

また、発達に課題がある子どもへの援助として、子どもを変えようと追い詰めるのでなく、環境や関わりを変えて、子どもが自ら変化していけるように導くこと、子どもの気になる行動に対して「どうしよう」と悩むばかりでなく、その行動をさせているのは「何だろう」と問題解決に向けて考えていくことが大切であるとお話がありました。

どのお話も、子どもの活動に関わる受講者にとって貴重な情報ばかりであり、今後の活動に役立つヒントをいただくことができました。



★　受講者の声　★

- 子ども一人一人の感じ方、思いをくみ取れるような活動にしていきたいと改めて思いました。
- その子の発達段階をよく見極めていきたいと思います。また、実践例を入れての研修は、とても分かりやすく、経験を考え直すいい機会になりました。
- 支援者として子どもたちの心の発達に応じた関わり方や対応の仕方を意識して活動をしていきたいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206　　e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp